

3 個別評価

(野田村実施分 効果促進事業一括配分)

3 - 1 農林水産省(◆C)事業

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	◆C-5-1-1
事業名	被災者のためのコミュニティ活動支援事業（下安家地区）
事業費	総額 76,780,728円 （内訳：役務費32,000円、委託料5,994,000円、工事費69,674,880円 備品購入費1,079,848円）
事業期間	平成24年度から平成27年度まで
事業目的・事業地区	漁業集落防災機能強化事業で整備する下安家地区に集会所を整備し、地区内のコミュニティの維持を図る。
事業結果	平成24年度 調査測量設計（基本設計） 平成26年度 調査測量設計（実施設計）、工事 平成27年度 工事、備品購入
【整備概要】	敷地面積：2,160.72㎡ 延床面積：226.07㎡
【整備備品】	テーブル：34脚 椅子：82脚 調理台：1台 非常用発電機：1台 石油ストーブ：4台 毛布：36枚
【外観】	【内観：ホール】
	
【整備した備品（イス・テーブル）】	【整備した備品（毛布）】
	

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

本事業により整備した下安家地区コミュニティセンターは、東日本大震災大津波により流出した集会所を再建したものである。当地区のコミュニティ形成の場として、また、有事の際には緊急避難場所として活用されている。

②コストに関する調査・分析・評価

積算基準に則り事業を進めたので、事業費は妥当といえる。

③事業手法に関する調査・分析・評価

	想定事業期間	実際の事業期間
調査・測量・設計	H24. 12～H26. 10	H24. 12～H26. 10
工事	H26. 11～H27. 10	H27. 3～H27. 10
その他（備品購入）	H27. 10	H27. 10

想定していた事業期間内に完了することができた。

事業担当部局

教育委員会事務局生涯学習文化班 電話番号：0194-78-2936

【被災者のためのコミュニティ活動支援事業（◆C-5-1-1）箇所図】



3 - 2 国土交通省(★D)事業

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 ★D-17-2-2 事業名 遊具整備事業（城内地区）		
事業費 総額 4,150,000円 （内訳：備品購入費4,150,000円）		
事業期間 平成24年度		
事業目的・事業地区 住民のコミュニティを維持するため、被災した公園の代わりとなる公園及び遊具を高台へ整備し、村民の憩いの場の提供を図る。		
事業結果 平成24年度 遊具購入、組立設置工		
【整備概要】 ブランコ：1基 ジャングルジム：1基 すべり台：1基 スイング遊具：2基 ブランコ安全柵：1基		
【ブランコ・安全柵】		【すべり台・ジャングルジム・スイング遊具】
		
事業の実績に関する評価		
①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 遊び場が被災し、外出機会の減少や仮設住宅などでストレスを抱えている子ども達が、遊具整備後は、子ども達同士また家族と一緒に来てのびのびと遊ぶことにより、ストレス解消や家族・地域コミュニティの維持が図られた。		
②コストに関する調査・分析・評価 整備に当たり、指名競争入札に付し、また、必要最小限の規模で遊具を設置しコスト縮減を図った。		
③事業手法に関する調査・分析・評価		
	想定事業期間	実際の事業期間
その他（遊具整備）	H24.12～H25.3	H25.1～H25.3
想定していた事業期間内に完了することができた。		
事業担当部局 教育委員会事務局生涯スポーツ班 電話番号：0194-78-2936		

【遊具整備事業（★D-17-2-2）箇所図】



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-17-2-11
事業名	城内地区防災拠点施設整備事業（城内地区）
事業費	総額 245,725,630円 （内訳：委託料20,636,285円、工事費201,274,454円、 土地購入費21,834,311円、備品購入費1,980,580円）
事業期間	平成26年度から平成29年度まで
事業目的・事業地区	村内中心部（城内地区）の土地区画整理事業と併せて、防災拠点施設等の公共施設を整備することにより、事業を助長し、「野田村東日本大震災津波復興計画」の基本理念である「安全・安心で活力あるむらづくり」の実現を図る。
事業結果	平成27～28年度 調査測量設計、工事 平成29年度 備品購入
【整備概要】	敷地面積：3,852.91㎡ 延床面積：1,131.45㎡ 鉄筋コンクリート造3階建て 1階：多目的ホール、児童室、栄養指導実習室等 2階：集会室 3階：展示室・一時避難場所 PH階
【整備備品】	テーブル：38脚 椅子：11脚 椅子収納台車：4台 非常用発電機：1台 石油ストーブ：4台 毛布：56枚 ホワイトボード：2台
【外観】	【展示室】3階
	

【集会室】 2階



【防災関連備品】 3階



事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

当該事業で整備した防災拠点施設は、保健センターと合築により整備し、平時は2階を地区の集会所、3階を震災の記憶を後世に伝える展示室として使用している。津波発生等緊急時は浸水区域外の指定緊急避難場所へ逃げ遅れた方の一時避難もできる機能を兼ねており、地区住民の憩いの場として、また、緊急時の避難場所として活用している。

②コストに関する調査・分析・評価

積算基準に則り事業を実施したほか、施工に当たっては設計・施工一括発注による総合評価落札方式を採用し実施したため、コスト縮減が図られた。

③事業手法に関する調査・分析・評価

	想定事業期間	実際の事業期間
調査・測量・設計	H26.4～H27.3	H27.4～H28.3
工事	H27.4～H29.3	H28.3～H29.3
その他（備品購入）	H29.4～H29.6	H29.5～H29.6

おおむね予定どおり進めることができた。

事業担当部局

保健福祉課保健班 電話番号：0194-75-4321

【城内地区防災拠点施設整備事業（★D-17-2-11）箇所図】



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-17-2-12
事業名	北区地区防災センター整備事業（北区地区）
事業費	総額 167,573,880円 （内訳：委託料27,745,200円、工事費138,730,320円、備品購入費1,098,360円）
事業期間	平成27年度から平成29年度まで
事業目的・事業地区	北区地区における避難場所については、滞在避難場所となる久慈工業高校とすることを『野田村復興むらづくり計画（H25.4）』において位置づけたが、最長500m以上の避難距離を有する避難対象地域が残ることから、北区地区に防災センターを整備することにより、市街地全体の安全・安心の確保を図る。
事業結果	平成27～28年度 調査測量設計、工事 平成29年度 備品購入
【整備概要】	敷地面積：1,120㎡ 延床面積：386㎡ RC造と木造の混構造 2階建て
【整備備品】	テーブル：24脚 座布団：60枚 椅子：16脚 調理台：1台 非常用発電機：1台 石油ストーブ：2台 毛布：60枚
【全景】	【集会室】
	
【キッチン】	【備品（防災毛布）】
	

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

当該事業で整備した防災拠点施設は、現在、北区地区コミュニティセンターとして使用され、平時は北区地区の集会所の機能として、また、津波発生等緊急時は浸水区域外の指定緊急避難場所へ逃げ遅れた方の一時避難もできる機能を兼ねそろえており、地区住民の憩いの場と緊急時の避難場所として活用されている。

②コストに関する調査・分析・評価

積算基準に則り事業を実施したほか、施工に当たっては設計・施工一括発注による総合評価落札方式を採用し実施したため、コスト縮減が図られた。

③事業手法に関する調査・分析・評価

	想定事業期間	実際の事業期間
調査・測量・設計	H27.4～H28.3	H27.4～H28.2
工事	H27.12～H29.3	H28.3～H29.3
その他（備品購入）	H29.4～H29.6	H29.5～H29.6

おおむね予定どおり進めることができた。

事業担当部局

教育委員会事務局生涯学習文化班 電話番号：0194-78-2936

【北区地区防災センター整備事業（★D-17-2-12）箇所図】



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

<p>事業番号 ★D-17-2-13</p> <p>事業名 城内地区区画整理地内街区公園施設整備事業（城内地区）</p> <p>事業費 総額 92,000,000円 （内訳：工事費92,000,000円）</p>
<p>事業期間 平成27年度から平成28年度まで</p>
<p>事業目的・事業地区 城内地区で実施されている市街地整備事業（城内地区津波復興土地区画整理事業）により創出される街区公園（1号～7号）において、街なかの公園として整備が必要な給水施設、照明施設、遊戯施設、サービス施設、管理施設及び建築施設の設置を実施する。</p>
<p>事業結果 平成27～28年度 工事</p> <p>【工事概要】 街区公園：7か所 休憩舎：1基 トイレ：1基 ベンチ：14基 水飲み場：2基 遊具：計4基（複合遊具・ジャングルジム・スイング遊具2基） 園名板：7基</p> <p>【整備した公園】</p>  <p>【公園風景及び遊具】</p>  <p>事業の実績に関する評価</p> <p>①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 多くの村民や観光客で賑わいを見せる「野田まつり」や「市日」などでの活用、親水護岸と一体的に整備した遊具で多くの子どもたちが遊ぶ姿も随時見られる。 また、管理については、地区住民、村内各種団体などが官民協働で行っている。</p> <p>②コストに関する調査・分析・評価 積算基準に則り事業を進めたため、事業費は妥当である。</p>

③事業手法に関する調査・分析・評価

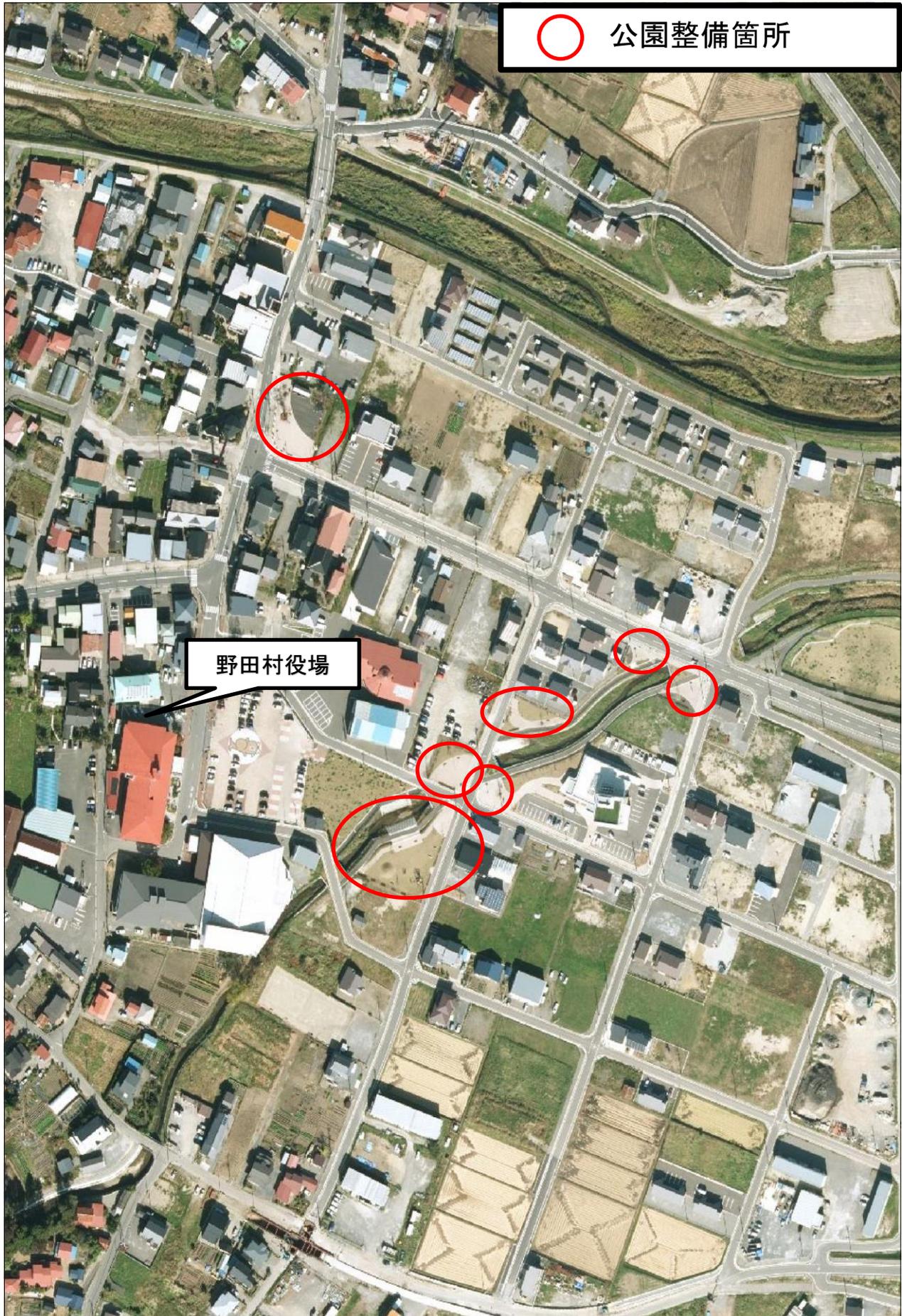
	想定事業期間	実際の事業期間
工事	H27.9~H28.3	H27.9~H29.1

他工種との調整、電柱移設、関係機関との協議等、また、受注者が平成28年台風第10号の災害復旧の応援要請に応え工事が中断した等で日数を要したことから、完成が大幅に遅れる結果になった。

事業担当部局

地域整備課土木班 電話番号：0194-78-2932

【城内地区区画整理地内街区公園施設整備事業（★D-17-2-13）箇所図】



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-17-2-14
事業名	城内地区周辺避難誘導施設整備事業（城内地区）
事業費	総額 43,104,730円 （内訳：工事費43,104,730円）
事業期間	平成28年度
事業目的・事業地区	城内地区で実施されている市街地整備事業（城内地区津波復興土地区画整理事業）により整備される区画道路及びその周辺において、災害時、迅速に避難することを可能にするため、夜間視認性にも配慮した避難誘導標識等の設置を実施する。
事業結果	平成28年度 工事
【工事概要】 避難誘導標識等の設置	太陽光パネル式避難標識：16基 高輝度蓄光式避難標識：12基 反射シート式避難標識：1基 津波避難情報板：2基 ソーラーパネル式照明灯：6基 高輝度蓄光式ドット表示材：579個 高輝度蓄光式ライン表示材：57.7m
【太陽光パネル式避難標識（役場前）】	【高輝度蓄光式避難標識（愛宕山入り口）】
	
【津波避難情報板】	【ドット・ライン表示材（愛宕山）】
	

【反射シート式避難標識（ソーラーパネル式照明灯と共架）】



事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

完成から現在まで、津波警報等による避難勧告等が発令されていないため、避難誘導として活用された例はないが、主要箇所には標識を設置していることにより、住民に避難場所を周知する役割を果たしており、また、災害に強いまちとして強化が図られた。また、都市公園事業（◆D-22-4-2）においても同様に避難誘導標識等を設置したため、避難場所までの連続性が保たれている。

②コストに関する調査・分析・評価

積算基準に則り事業を進めたため、事業費は妥当である。

③事業手法に関する調査・分析・評価

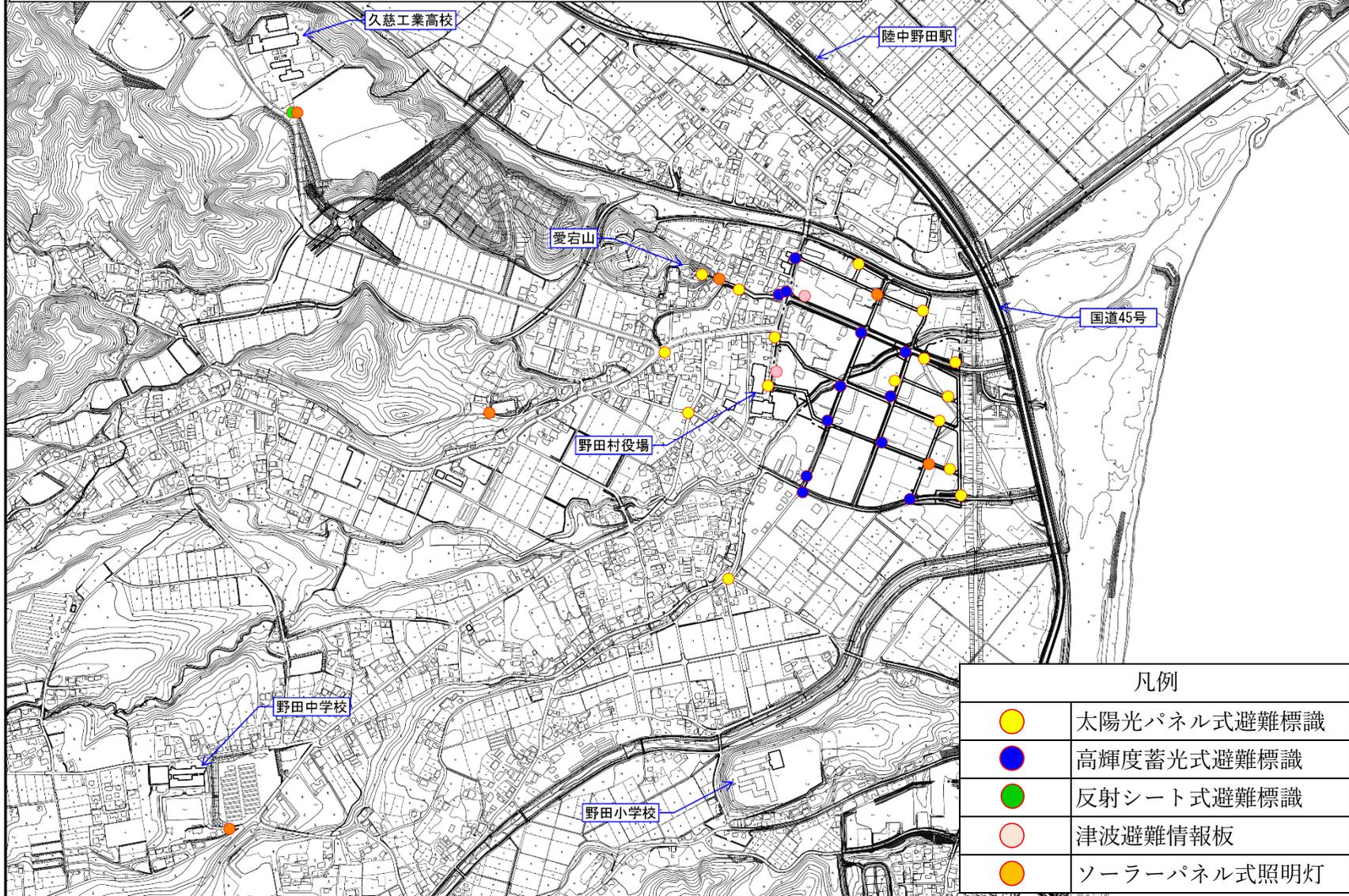
	想定事業期間	実際の事業期間
工事	H28.12～H29.3	H28.12～H29.7

おおむね想定していた事業期間内に事業を完了することができた。

事業担当部局

地域整備課土木班 電話番号：0194-78-2932

城内地区周辺避難誘導施設整備事業 (★D-17-2-14) 箇所図



凡例	
● (Yellow)	太陽光パネル式避難標識
● (Blue)	高輝度蓄光式避難標識
● (Green)	反射シート式避難標識
● (Pink)	津波避難情報板
● (Orange)	ソーラーパネル式照明灯

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-17-2-15							
事業名	城内地区防犯灯設置事業（城内地区）							
事業費	総額 1,675,534円 （内訳：工事費1,675,534円）							
事業期間	平成28年度							
事業目的・事業地区	城内地区で実施されている市街地整備事業（城内地区津波復興土地区画整理事業）により整備された地区内において、津波により流失した防犯灯を再整備して夜間の安全性を確保するため、LED防犯灯の設置を実施する。							
事業結果	平成28年度 工事							
【工事概要】	防犯灯の設置 防犯灯（LED灯・電柱共架）：21基							
【防犯灯（共架式）】	【防犯灯（拡大）】							
								
事業の実績に関する評価	<p>①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 防犯灯を設置し、夜間の地域の安全性が向上したため、居住している住民、生活再建を進める住民の安心感が増した。</p> <p>②コストに関する調査・分析・評価 積算基準に則り事業を進めたため、事業費は妥当である。</p> <p>③事業手法に関する調査・分析・評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>想定事業期間</th> <th>実際の事業期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事</td> <td>H28.12～H29.3</td> <td>H28.12～H29.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>想定していた事業期間内に完了することができた。</p>			想定事業期間	実際の事業期間	工事	H28.12～H29.3	H28.12～H29.3
	想定事業期間	実際の事業期間						
工事	H28.12～H29.3	H28.12～H29.3						
事業担当部局	地域整備課土木班 電話番号：0194-78-2932							

【城内地区防犯灯設置事業（★D-17-2-15）箇所図（●が本事業で設置した防犯灯）】



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-23-5-2
事業名	南浜地区コミュニティ活動施設整備事業（南浜地区）
事業費	総額 62,419,250円 （内訳：役務費23,000円、委託料4,481,250円、工事費56,874,960円 備品購入費1,040,040円）
事業期間	平成25年度から平成26年度まで
事業目的・事業地区	東日本大震災大津波により流失した南浜地区の集会所を、防災集団移転促進事業及び災害公営住宅整備事業で整備する高台団地内に整備することにより、地区内のコミュニティ活動の場と、非常時の緊急避難場所として活用を図る。
事業結果	平成25年度 調査測量設計 平成26年度 工事、備品購入
【整備概要】	敷地面積：849.69㎡ 延床面積：161.47㎡ 木造平屋建て
【整備備品】	テーブル：24脚 椅子：60脚 調理台：1台 非常用発電機：1台 石油ストーブ：2台 毛布：72枚
【外観】	
【キッチンスペース】	
【集会スペース】	
【和室】	

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

本事業により整備した南浜地区コミュニティセンターは東日本大震災大津波により流出した集会所を再建したものである。当地区のコミュニティ形成の場として、また、有事の際には緊急避難場所として活用されている。

②コストに関する調査・分析・評価

積算基準に則り事業を進めたので、事業費は妥当といえる。

③事業手法に関する調査・分析・評価

	想定事業期間	実際の事業期間
調査・測量・設計	H25. 5～H26. 3	H25. 6～H26. 3
工事	H26. 4～H27. 3	H26. 4～H26. 11
その他（備品購入）	H26. 11～H27. 3	H26. 12

想定していた事業期間内に完了することができた。

事業担当部局

地域整備課土木班 電話番号：0194-78-2932

【南浜地区コミュニティ活動施設整備事業（★D-23-5-2）箇所図】



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-23-5-4										
事業名	野田中学校運動環境整備事業（中平地区）										
事業費	総額 5,896,800円 （内訳：委託料420,000円、工事費5,476,800円）										
事業期間	平成25年度										
事業目的・事業地区	<p>東日本大震災大津波により、野田村立野田中学校のグラウンドを活用し、被災者へ応急仮設住宅を供与している。その間、野田中学校においては、グラウンドを利用できず、外で行う体育の授業や部活道などに支障を来している。</p> <p>本事業にて、テニスコート（仮設グラウンド）の周囲をアスファルト舗装し、トラックとして造成することにより、生徒たちが体育の授業や部活道など多目的・複数的に活動できるようにする。</p>										
事業結果	<p>平成25年度 調査測量設計、工事</p> <p>【トラック】</p>  <p>【センターライン及びメーター数】</p> 										
事業の実績に関する評価	<p>①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>本事業において、仮設グラウンドの周囲を舗装し、トラックとして整備したことで、ランニング等の活動が可能となり、生徒の体力向上を図ることができた。</p> <p>②コストに関する調査・分析・評価</p> <p>積算基準に則り事業を進めたため、事業費は妥当である。</p> <p>③事業手法に関する調査・分析・評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>想定事業期間</th> <th>実際の事業期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査・測量・設計</td> <td>H25. 9～H26. 3</td> <td>H25. 10～H25. 11</td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td>H25. 9～H26. 3</td> <td>H25. 12～H26. 3</td> </tr> </tbody> </table> <p>おおむね予定どおり進んだ。</p>			想定事業期間	実際の事業期間	調査・測量・設計	H25. 9～H26. 3	H25. 10～H25. 11	工事	H25. 9～H26. 3	H25. 12～H26. 3
	想定事業期間	実際の事業期間									
調査・測量・設計	H25. 9～H26. 3	H25. 10～H25. 11									
工事	H25. 9～H26. 3	H25. 12～H26. 3									
事業担当部局	教育委員会事務局学校教育班 電話番号：0194-78-2936										



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-23-5-7
事業名	城内高台団地防災行政無線子局増設工事整備事業（城内地区）
事業費	総額 6,912,000円 （内訳：工事費6,912,000円）
事業期間	平成27年度
事業目的・事業地区	東日本大震災大津波により、防災集団移転促進事業及び災害公営住宅整備事業で整備した城内高台団地内に防災行政無線子局を整備する。
事業結果	平成27年度 工事
【整備概要】	防災行政無線：1基（全方位型スピーカ搭載）
【設置した防災行政無線】	【スピーカ及びアンテナ】
	
<p>事業の実績に関する評価</p> <p>①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>当該子局を設置する以前においては、防災行政無線の音達範囲外であった（別紙参照）。本事業において城内高台団地の中央部（新町地区コミュニティセンター隣）に子局を整備し、かつ、全方位型のスピーカを設置したことにより団地一体をむら無くカバーでき、基幹事業を助長し団地内の防災対策の向上を図ることができた。</p> <p>②コストに関する調査・分析・評価</p> <p>当該子局を設置した城内高台団地は74区画あり、敷地面積が6ヘクタールと広い団地である。村でこれまで設置してきた子局と同様の方式で設置した場合、全方向へ音が届くようスピーカを4方向分及び東西方向にはストレートホーン型のスピーカを設置する必要があり、他地区より大幅に費用がかかる。今回設置した防災無線スピーカは1つで全体に音達する全方位型を導入したため、設置にかかるコストは抑えられた。</p>	

③事業手法に関する調査・分析・評価

	想定事業期間	実際の事業期間
工事	H27. 4～H27. 12	H27. 8～H28. 2

大雪等悪天候による延期で若干ではあるが完了が遅れたが、平成28年4月の災害公営住宅の入居開始前に完了することができた。

事業担当部局

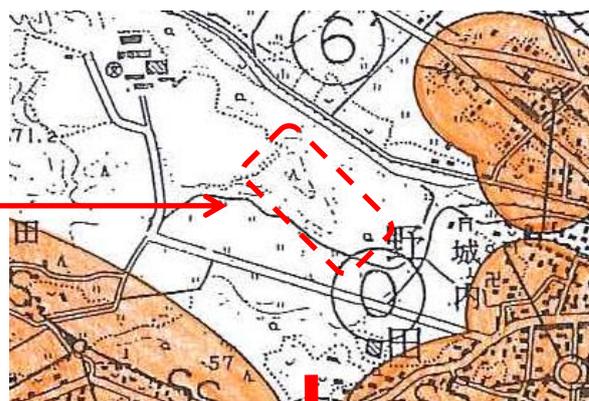
未来づくり推進課未来づくり推進班

電話番号：0194-78-2963

(別紙)



【新設前の城内高台団地付近の音達マップ】



【新設後の城内高台団地付近の音達マップ】

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	★D-23-5-8
事業名	城内・米田・南浜地区周辺避難誘導施設整備事業（城内・米田・南浜地区）
事業費	総額 5,724,000円 （内訳：工事費5,724,000円）
事業期間	平成29年度
事業目的・事業地区	東日本大震災大津波で被災した米田地区及び南浜地区で実施されている防災集団移転促進事業により整備される団地周辺において、災害時、迅速に避難することを可能にするため、夜間視認性にも配慮した避難誘導標識等の設置を実施する。
事業結果	平成29年度 設置工事
【工事概要】	避難誘導標識の設置 避難誘導標識：4基
【避難誘導標識（南浜地区）】	【緊急避難場所看板（南浜地区）】
	
【避難誘導標識（米田地区）】	【緊急避難場所看板（米田地区）】
	
事業の実績に関する評価	
①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価	避難誘導標識の設置により、津波発生時に迷う事なく速やかな避難が可能となり、地域住民の安心・安全に寄与している。
②コストに関する調査・分析・評価	積算基準により事業を進めたため、事業費は妥当である。

③事業手法に関する調査・分析・評価

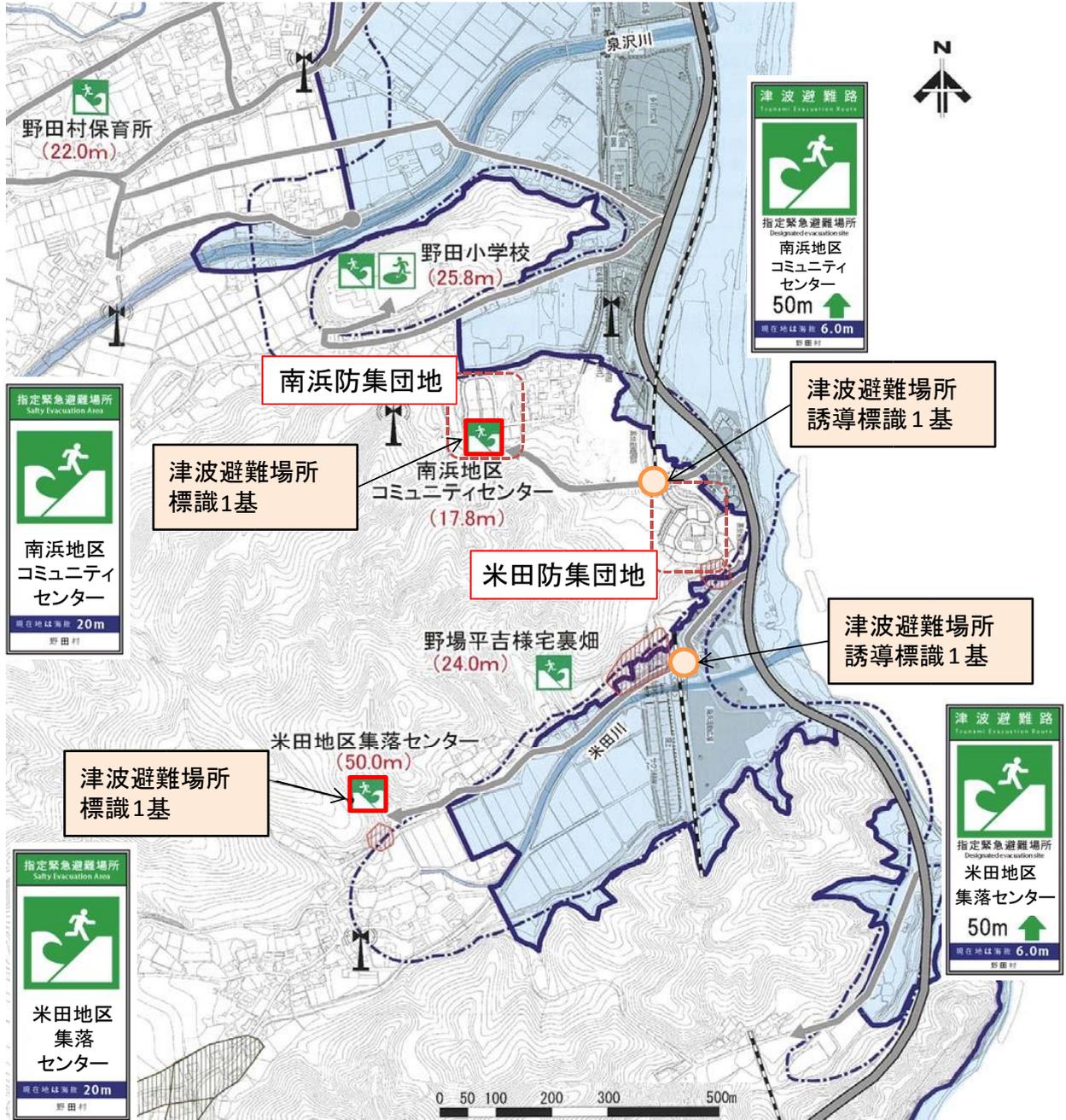
	想定事業期間	実際の事業期間
工事	H29. 7~H29. 10	H29. 8~H29. 10

想定していた事業期間内に完了することができた。

事業担当部局

地域整備課土木班 電話番号：0194-78-2932

【城内・米田・南浜地区周辺避難誘導施設整備事業（★D-23-5-8）箇所図】



津波

— 避難経路 指定緊急避難場所 (地震・津波) (標高〇m) 防災無線

津波浸水区域実績

- 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)(2011年)
※「東日本大震災津波被災市街地復興実態調査」、税務課資料より
- 昭和35年チリ地震(1960年)
※「野田村津波防災マップ(平成9年)」より
- 明治三陸(1896年)、または昭和三陸地震(1933年)
※「野田村津波防災マップ(平成9年)」より

危険箇所	
土石流	
崖崩れ	

凡例	
	津波避難場所標識 (DSP1000×400 2基)
	津波避難場所誘導標識 (DSP1000×400 2基)